

3 出土遺物

8世紀後半～9世紀中頃の須恵器や土師器が出土しています。竪穴建物からは9世紀中頃の佐渡小泊窯産の須恵器が多く出土しており、五頭山麓古窯産の須恵器も少量伴います。土師器には、椀・鍋・甕などがあります。また、フイゴの羽口や鉄滓も確認されることから、集落で鍛冶が行われていた可能性があります。



竪穴建物から出土した須恵器・土師器



土師器の椀・甕

4 山口遺跡と周辺の古代遺跡

山口遺跡は旧小里川右岸に位置しますが、対岸には9世紀前半を主体とする柄目木遺跡が隣接します。南西約600mには9世紀末葉～10世紀初頭の三辺稲荷遺跡が存在します。また、遺跡の北東約6kmには古代沼垂郡の役所として機能していたと考えられる発久遺跡や腰廻遺跡が存在します。



山口遺跡と古代の主要遺跡位置図 (1:40,000)

第2回 山口遺跡現地説明会

やまぐち

[新潟県阿賀野市山口字城ヶ窪 2887 ほか]

～倉庫が見つかった古代の集落～



④ 倉庫と考えられる掘立柱建物 (長さ4m、幅3.5m・西から)

長さ4m、幅3.5mで、60～80cm角の大きな穴(掘形)に直径約20cmの柱を埋め立てた2間×2間の総柱建物です。

1 はじめに

山口遺跡の発掘調査は、一般国道49号阿賀野バイパス建設に伴い平成22年4月から行っており、今回の調査面積は3,500㎡です。遺跡は旧阿賀野川や旧小里川によって形成された自然堤防上に立地し、標高は約6mです。

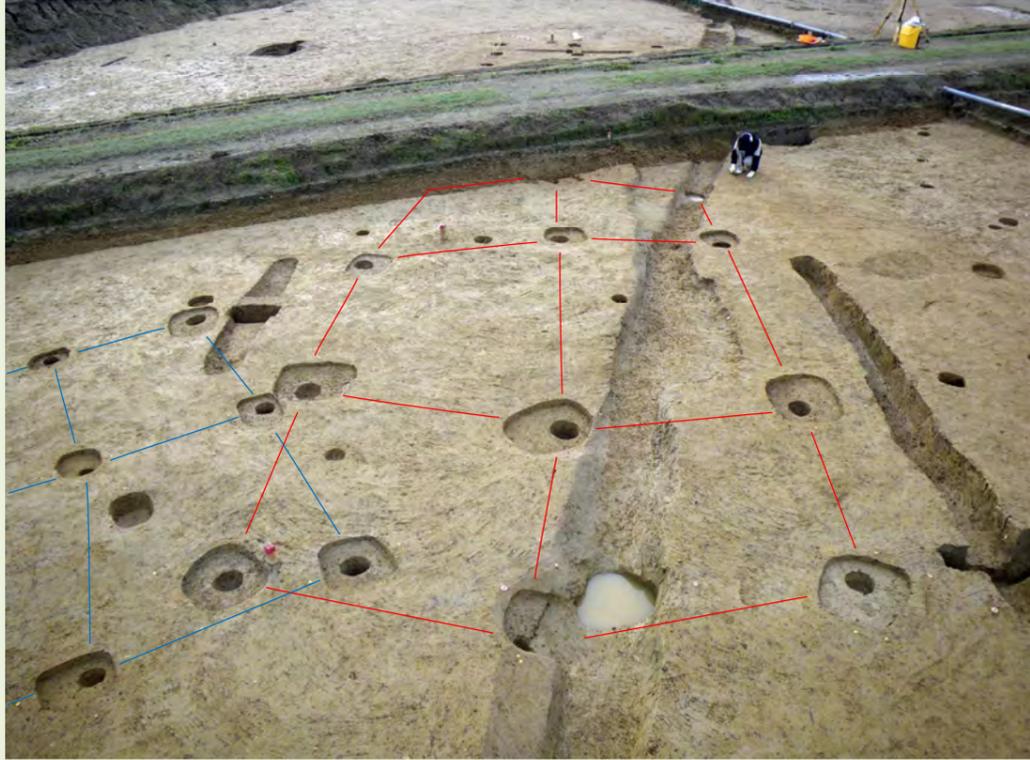
これまでの調査で、溝で区画した中世(鎌倉～室町時代)の屋敷から掘立柱建物や井戸などを検出し、8月の現地説明会で公開しました。調査の進展に伴い、古代(奈良～平安時代)の遺構を多数検出したことから、第2回の現地説明会を開催します。注目されるのは、倉庫と考えられる掘立柱建物が見つかったことです。一般的な集落では見つかることの少ない倉庫の発見は、山口遺跡の性格を考える上で重要です。

平成22年10月16日(土)

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
株式会社 帆苺組

2 見つかった遺構

遺構は調査区全体から見つかりましたが、西側に集中する傾向がうかがえます。掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}7棟、竪穴建物^{たてあなもの}2棟、井戸1基のほか、溝や土坑が見つかりました。掘立柱建物は総柱建物が多く、2間×2間や2間×3間のもののほか、3面に廂^{ひさし}が付くものも認められます。柱は一回り大きな穴（掘形）に埋め立てられており、その痕跡から太いものは直径約20cmと推定されます。



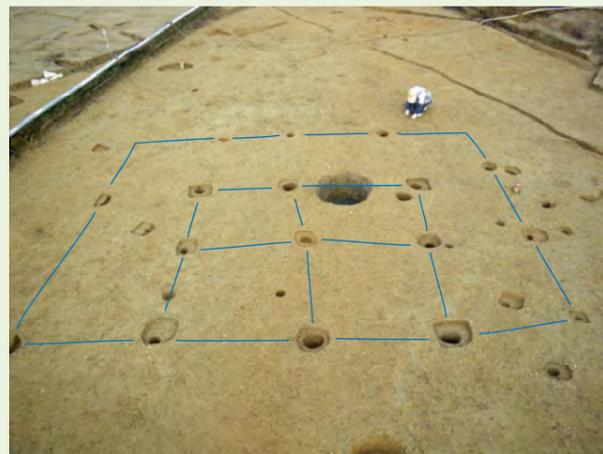
① 掘立柱建物（東から）

長さ9m・幅4.6mの2間×3間の総柱建物です。今回見つかった中で最も大きなものです。両側に側溝を伴い、中央の柱間が長いことが特徴です。



② 井戸

1辺が1.8mの方形の穴に90cm角の井戸側を設置したものです。深さは約2mと推定されます。検出面の1m下から井戸側を構成する横板が出土しています。今後、下部構造を調査します。



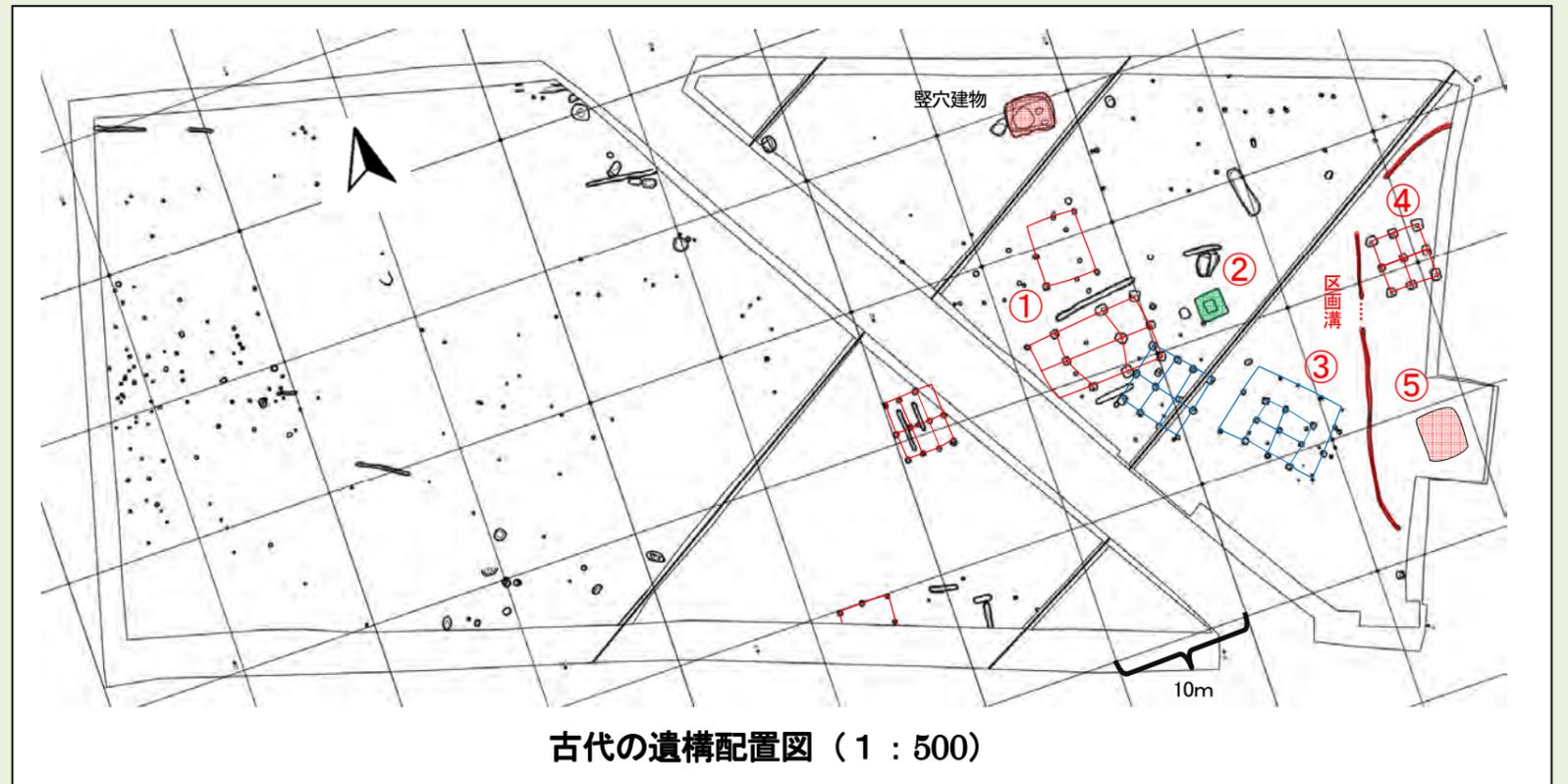
③ 3面に廂が付く掘立柱建物

2間×2間の総柱建物の3面に廂が付くものと考えられます。廂を入れた長さは7m、幅は5.4mです。



⑤ 竪穴建物

長さ4m、幅3.5m、深さ50cmの長方形を呈します。床は厚さ5cmの粘土を貼った土間で、須恵器や土師器のほか焼土や炭化物が大量に出土しました。柱穴は見つかりません。



古代の遺構配置図（1：500）

3 まとめ

掘立柱建物の方位を見ると、南北に軸を合わせた一群（赤色のもの）と、西側に45度傾いた一群（青色のもの）があることが分かります。二つの群の時期関係は今のところ不明ですが、集落に2度の画期があったものと推測されます。また、南北の一群と竪穴建物・井戸は軸を合わせていることから、同時期のものと推定されます。こうした計画性のある総柱建物群が見つかったのは、古代沼垂郡では初めてです。

旧小里川の右岸に立地する当遺跡は、河川交通の便に利しており、倉庫の存在から古代における物資の集積場であった可能性があります。阿賀市内の福島潟^{ふくしまがた}周辺には、沼垂郡の役所として機能していたと考えられる発久遺跡^{はつきゆう}や腰廻遺跡^{こしまわり}などがあります。阿賀野川に程近い山口遺跡^{こまばやし}も駒林川を経由して福島潟に通じており、これらの遺跡と有機的に結びついていた可能性もあります。遺跡は東側に続いており、来年度以降の調査によって全体像が明らかになることが期待されます。



山口遺跡と発久遺跡・福島潟との位置関係（南西から）